

中間年度見直しシート

感じよう（感動） 1 知ろう（情報・理解）			資料 2	
基本施策 1－（１）芸術文化活動の情報発信体制の充実				
数値目標 芸術文化の情報発信が不十分であると感じている人数			目標値 70/1,000人（7％）	未達成
【当初】88人／1,000人（8.8％）			【見直し】316人／1,000人（31.6％）	
実行プラン①芸術文化活動情報発信の基盤整備				
当初			見直し	
現状と課題			現状と課題	
本市での芸術文化活動の情報については、市広報や大野城まどかびあ情報誌などにより発信しています。しかし、市や大野城まどかびあが行う主催事業の情報発信に留まっており、その他の芸術文化活動の情報を発信できていない現状があります。そのため、市内で行われている様々な芸術文化活動の情報を集約し、市民に発信する仕組みを整備する必要があります。			・当初より不十分である（あまり十分ではない、まったく十分ではない）と考えている市民が多い。 ・情報を取得する手段としては、「市・まどかびあ広報」が最も多かった。 ・「あまり十分ではない」と回答した世代は、40代、50代が最も多い。「まったく十分でない」との回答については、大きな世代差はない。 ・情報を取得する手段が多様化し、30代～60代において、特にホームページやSNSなどのインターネットを用いた情報取得を望む声が増えた。	
目的			見直しの方針	
市内で行われている様々な芸術文化活動の情報を集約して、個人・団体の活動を紹介し、活動内容を知りたい市民へ情報を提供するために、活動団体と市民をつなぐ仕組みとして、情報発信基盤を整備する。			・どの世代の市民でも情報にたどり着けるように、既存の広報誌や情報の森などの紙媒体での情報発信に加え、インターネットを用いた情報発信方法を整備するなど、より多くの市民に届くよう周知する。	
参考となる取り組み			実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
芸術文化情報発信サイトの構築			芸術文化情報サイトの構築	
			新たに必要な取り組み	
			芸術文化情報サイトの構築及び周知、勧奨活動	
実行プラン②芸術文化に関する情報内容の充実				
当初			見直し	
現状と課題			現状と課題	
芸術文化の情報について、アンケート調査の結果によると、多くの市民が市広報や大野城まどかびあ情報誌などに加え、イベントのチラシ・ポスターなどによって情報を得ていることがわかった上、さらなる情報発信・情報提供体制の充実についても求める声が多くありました。このことから、発信した情報が活動につながる有効なものとなるよう、既存の様々な情報発信媒体において、内容をわかりやすく工夫するなどし、さらなる情報の充実を図る必要があります。			・イベントや活動団体情報を発信する上でも、活動の様子や団体・アーティストの思いや人となりが分かる方が、活動（習い事含む）を選ぶ際ヒントとなり、活動につながりやすい。 ・情報発信方法を多様化するだけでなく、世代や芸術文化の興味の有無に合わせた「活動につながる情報」が求められている。	
目的			見直しの方針	
よりわかりやすい情報を提供するために、魅力ある紙面やホームページ・SNS※等の作成方法について学び、既存の情報発信媒体における情報の充実を図るとともに、より多くの市民の目に触れることができるようにします。			活動につながる情報を発信するために、芸術文化情報サイトに掲載する内容の充実と、掲載された情報を広く周知するための仕組みを検討する。	
参考となる取り組み			実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
芸術文化情報誌の作成研修 広報「大野城」や大野城まどかびあ情報誌などの配架場所の増設			広報「大野城」や大野城まどかびあ情報誌などの配架場所の増設（大野城まどかびあ「情報の森」整備）	
			新たに必要な取り組み	
			芸術文化情報サイトの情報をより多くの方に伝えるための仕組みの検討	

感じよう（感動） 1 知ろう（情報・理解）			
基本施策 1－（２）芸術文化の魅力を伝える機会の創出			
数値目標 芸術文化が必要だと思う人数		目標値 800/1,000人（80.0％）	達成
【当初】738人／1,000人（73.8％）		【見直し】833人／1,000人（83.3％）	
実行プラン①芸術文化の魅力を伝える機会の創出			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化は、人々の創造性を育み、相互理解や多様性を受け入れ、心豊かな社会を形成する力があるとされています。アンケート調査の結果によると、身近にある芸術文化の魅力が十分に伝わっていない現状が見えてきました。そのため、芸術文化がもたらす魅力を広く伝えていくことが求められています。		・芸術文化が必要だと思う市民は増えているが、50代は他年代と比べて必要性を感じていない人が多い。芸術文化の魅力を対象に応じてアプローチ方法を検討することが求められる。 ・日々の生活の中や新しい価値観や活動に出会うきっかけとして芸術文化活動が必要だと感じている。 ・一方で、芸術文化活動を行っていない理由としては、「興味がない」と感じている市民もあり、引き続き魅力を伝えていくことが求められる。	
目的		見直しの方針	
芸術家との実践活動や鑑賞活動の場を提供することや、実際に芸術文化活動をした人の感想等を言葉や映像、音など様々な手法により伝えていくことで、芸術文化が持つ魅力を感じてもらい機会を創出します。		変更なし	
参考となる取り組み		実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・市民と芸術家との交流機会の創出 ・SNSや動画投稿サイトの活用 など		・まどかフェスティバルやジュニアときめき文化祭でのオンライン配信実施（SNSや動画投稿サイトの活用） ・市内で活動するアーティスト、文化団体へのインタビュー調査（市民と芸術家との交流の機会の創出）	
		新たに必要取り組み	
		・芸術文化の多様な魅力を伝える機会の創出 ・芸術文化レポーター制度の検討	

感じよう（感動） 2 行こう（参加）			
基本施策2ー（１）芸術文化に興味を持ち、誰もが体験・鑑賞できる環境づくり			
数値目標 芸術文化を鑑賞した人数		目標値 800人／1,000人（80.0％）	未達成
【当初】722人／1,000人（72.2％）		【見直し】425人／1,000人（42.5％）	
数値目標 芸術文化の実践活動をした人数		目標値 400人／1,000人（40.0％）	未達成
【当初】349人／1,000人（34.9％）		【見直し】209人／1,000人（20.9％）	
実行プラン①誰もが体験・鑑賞できる環境づくり			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化は、人々の生き方、暮らし方に大きく関わるものであることから、望む人は誰でも芸術文化を楽しめるような、出会いの機会を保障されることが求められています。 アンケート調査の結果によると、多くの人が芸術文化の必要性を感じていますが、実践活動をした人は少ないという現状があります。 このことから、活動をしたくてもできない原因を把握することで、より多くの市民が芸術文化に触れることができる環境づくりを行っていく必要があります。		・コロナ禍を経て、自宅での芸術文化活動が増え、鑑賞方法が多様化している。 ・芸術文化活動を提供する文化団体や地域の活動団体では、芸術文化を活動に取り入れたいと思う声が多い一方で、芸術文化を取り入れた活動を企画することが難しかったり、取り入れ方がわからないという声が多い。	
目的		見直しの方針	
芸術文化活動ができていない原因（バリア）に関する調査研究をもとに、心理的・物理的バリアについて把握し、その結果を様々な分野の芸術文化活動に活用していくことを目指します。		市内のあらゆる場所で芸術文化活動が行われることで、市民が参加する機会を増やすことができることから、芸術文化を取り入れるための方法や芸術文化活動をサポートするための仕組みづくりを行う。	
参考となる取り組み		実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
芸術文化に対するアクセシビリティ※の調査研究		・芸術文化に対するアクセシビリティの調査研究	
		新たに必要取り組み	
		・地域で芸術文化を取り入れた活動が広まるための仕組みの検討	
実行プラン②誰もが体験・鑑賞できる機会の創出			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化活動ができていない人の多くは、アンケート調査の結果から、「時間的余裕がない」「興味がない」などの理由により活動につながっていないことが見えてきました。 このことから、身近な場所において気軽に芸術文化に触れることができる機会を創出する必要があります。		・新型コロナウイルス感染症は、活動の自粛など芸術文化活動にも制限をもたらし、活動への参加にも影響を与えている。 ・活動しない理由として、コロナ禍や時間の余裕がないという他に、「きっかけが少ない」と答える市民が多く見受けられた。 ・「みんなで体験活動をしてみたい」と感じる児童・生徒は多く、「学校」「公民館」「コミュニティセンター」「まどかぴあ」など身近な場所での活動を希望している。 ・芸術文化活動を体験した児童・生徒のうち、約半数が学校以外で体験を行ったことがなく、学校での芸術文化活動の重要性がうかがえる。	
目的		見直しの方針	
文化施設において魅力的なイベントを展開することに加え、身近な場所で芸術文化活動ができるようにアウトリーチ（訪問型文化体験）事業を充実するなどし、環境整備を図ります。		世代に応じた身近な場所で芸術文化活動が行うことができるように、アウトリーチ事業などの環境整備に取り組む。	
参考となる取り組み		実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・各コミュニティセンターや公民館などでの芸術文化イベントの実施及び支援 ・市民参加型芸術文化事業の実施 ・中学校吹奏楽部合同演奏会 ・大野城まどかぴあ鑑賞型事業		・市民参加型芸術文化事業の実施（まどかフェスティバルでのダンスワークショップ） ・各コミュニティセンターや公民館での芸術文化イベントの実施（大野城まどかぴあ能舞台ワークショップ） ・アウトリーチ事業 ・大野城まどかぴあ鑑賞型事業 ・インリーチ事業（まどかぴあ大ホール）	
		新たに必要取り組み	
		・地域（各コミュニティセンターや公民館）での芸術文化イベントの実施及び支援	

創ろう（創造） 3 育てよう（育成・養成）		
基本施策3ー（1）芸術文化の創造・継承活動への多面的な支援		
数値目標	活動規模が大きくなっていると思う文化団体の数	目標値 年間1団体
【当初】	15団体／43団体（34.9％）	【見直し】16団体／66団体（24.2％）
実行プラン①若い世代の芸術文化活動の担い手の育成		
当初		見直し
現状と課題		現状と課題
本市においては、多くの子どもたちが発表会の場等を通じて、芸術文化活動を行っていますが、成長が進むにつれて活動が継続されないことが多く、本市における芸術文化活動の担い手が育成されていない現状があります。そのため、文化団体との意見交換を行うなどして実態を把握し、本市における芸術文化の継承・発展のため、若い世代が活動意欲を高められるような取り組みを検討していく必要があります。		・文化団体は、活動する上での課題として「新メンバーの確保」や「メンバーの高齢化」を挙げている。 ・小中学生を含む市民の多くは経験したいジャンルに偏りがあり、とりわけ伝統芸能、舞踊、国民音楽などが低い割合となっている。ジャンルの偏りと体験の機会の有無は、それぞれの担い手を生み出すためのスタートとしてハードルとなっていると考えられる。
目的		見直しの方針
次代を担う若い世代の活動を支援することにより、芸術文化活動の将来的な担い手を育成し、本市の文化振興につなげていきます。加えて、国内外で羽ばたいていけるような芸術家の育成を視野に入れた取り組みを進めていきます。		担い手を育成するには、様々な分野を体験してもらい裾野を広げる必要がある。そこで、若い世代があらゆる芸術文化のジャンルに触れる機会を設け、将来の担い手となるような育成を視野に入れた活動の支援を行う。
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）
・新たな芸術文化活動の場所の提供 ・版画ビエンナーレ ・ジュニアときめき文化祭事業	・多様なジャンルを体験できる機会の提供 ・中学校プラスクリニック事業 ・子ども文化活動・交流推進事業	・版画ビエンナーレ（公募展・WS） ・ジュニアときめき文化祭事業（作品展示・舞台発表・体験会） ・子ども文化活動・交流推進事業（文化連盟による体験活動）
		新たに必要取り組み
		・多様なジャンルを体験できる機会の提供
実行プラン②芸術文化活動の企画・運営者（団体含む）への支援		
当初		見直し
現状と課題		現状と課題
市内で芸術文化が発展していくためには、地域において芸術文化活動が主体的に行われ、継承されていく必要があります。しかしながら、アンケート調査の結果によると、活動内容が低下してきていると感じている団体があることが見えてきました。このことから、地域において活動を行っている個人・団体の活動内容の充実や発展のために、様々な取り組みを行う必要があります。		・文化団体、地域の活動団体ともに、「活動の規模が縮小している」「あまり変わらない」との回答が多くを占めている。 ・昨年度実施した文化団体に対するヒヤリング調査では、コロナ禍でストップしてしまった活動を以前のように戻すことは大変であるとの声もあった。 ・これ以上活動の規模が縮小しないように支援する必要がある。
目的		見直しの方針
活動場所の提供や助成制度など、多面的な支援を行い、芸術文化活動を行う個人・団体の活動内容の活性化を図ります。		活動場所や助成制度など活動につながる情報を一元化し、あらゆる支援にたどり着くためのサポートや、団体の活動の規模や幅が広がるために必要な研修等を行う。
参考となる取り組み		実施している（した）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）
・地域活性化交付金の活用 ・文化連盟運営補助事業	・企業が行う芸術文化活動の活用 ・芸術助成事業（市民企画）	・文化連盟運営補助事業 ・文化連盟団体紹介ページの充実化 ・芸術助成事業（市民企画） ・芸術文化大会参加費用補助金
		新たに必要取り組み
		・芸術文化情報発信サイトでの各団体のPRやあらゆる支援情報の一元化 ・ファシリテーター養成講座の実施

創ろう（創造） 3 育てよう（育成・養成）		
基本施策3ー（2）芸術文化を活かす担い手と受け手をつなぐ機能の充実		
数値目標 芸術文化に関する相談件数	目標値 年間5件	達成
【当初】未実施	【見直し】8件（令和4年度実績）	
実行プラン①芸術文化活動を支える人材の育成		
当初	見直し	
現状と課題	現状と課題	
本市の芸術文化の持続的な発展には、芸術家等のみならず、市民の芸術文化活動を支える人材育成が必要不可欠ですが、そのような場が提供されていない現状があります。 このことから、本市の芸術文化が維持・発展していくために芸術文化活動を支える人材（管理運営、企画制作、資金調達等）の育成が求められています。	・地域の活動団体では、約7割が芸術文化を取り入れたいと思っているものの、企画することが難しいなどの課題がある。地域の活動団体は、市民が芸術文化に触れる機会を提供する担い手にもなりうるため、活動に芸術文化を取り入れられるようにサポートする必要がある。 ・アンケートでは、芸術文化を体験したいとの声も多く、体験が活動をはじめるきっかけと考えられていることが分かった。しかし、地域で芸術文化事業を継続、発展させる人材の育成が進んでいない。	
目的	現状と課題	
芸術文化活動の活性化のために研修や講座等を通して、芸術文化活動を支える人材を育成し、本市における芸術文化の発展を目指します。	変更なし	
参考となる取り組み	実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・アートマネジメント研修会	・九州大学とのアートマネジメント研究 ・映画マナームービー公募事業	
	新たに必要取り組み	
	・芸術文化を支え、社会とつなげるための仕組みづくり（アートマネジメント研究など）	
実行プラン②芸術文化活動の担い手と受け手をつなぐ機能の充実		
当初	見直し	
現状と課題	現状と課題	
アンケート調査の結果において、多くの市民が芸術文化の必要性を感じていますが、「活動するきっかけがない」「活動の仕方がわからない」などの理由で活動につなげていない現状が見えてきました。 このことから、芸術文化活動について相談できる機能など、芸術文化に関わる全ての人々をつなぐ体制の充実が求められています。	・市民、地域の活動団体問わず、芸術文化は必要だと感じているが、「活動の仕方がわからない」「希望に合う活動がない」など活動につなげていない状況が見受けられる。 ・芸術文化活動を始めるきっかけとなるような情報を提供し、確実に必要な人へ届ける仕組みを検討するなど、担い手と受け手をつなぐ機能が求められている。	
目的	見直しの方針	
芸術文化活動の担い手と受け手をつなぐ機能を充実し、市民が気軽に芸術文化に慣れ親しみ、市内での芸術文化活動が活性化することを目指します。	変更なし	
参考となる取り組み	実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・（仮称）芸術文化よろず相談所の設置	・芸術文化に関する相談の受付	
	新たに必要取り組み	
	・（仮称）よろず相談所のあり方の検討	

創ろう（創造） 4 つながろう（連携・融合）			
基本施策 4 ー（１）団体や芸術分野を超えた交流の促進			
数値目標 活動内容が充実していると思う文化団体の数		目標値 年間 1 団体	未達成
【当初】 25団体／43団体（58.1％）		【見直し】 23団体／66団体（34.8％）	
実行プラン①芸術分野がつながる活動の推進			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
本市では多くの個人・団体が、各芸術分野において活動していますが、団体間の連携や、他分野間との交流などがあまり図られていない現状があります。 今後は、個人や団体、芸術分野間において連携・共働をすることにより、新たな文化活動の形を創造する仕組みづくりを行う必要があります。		・芸術文化活動団体では、「活動の内容が向上している」「あまり変わらない」と回答している団体が半数以上いるものの、前回の調査以降、「活動の内容が低下している」と感じている団体の割合が増えている。 ・他団体との交流を行っている団体も半数程度にとどまっていることがわかった。 ・交流の場でやりたいこととして、「合同イベントの実施・企画」「情報共有」等を行いたいと考えている文化団体が多い。	
目的		見直しの方針	
活動団体や芸術分野を超えた連携・融合を図り、それぞれが持つ特性を活かした新たな文化活動が創造されることを目指します。		団体の活動を充実させたり、新たな活動を生み出すために、活動団体や分野を超えた交流・連携を図る取り組みが必要である。	
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・活動団体や芸術分野を超えた交流イベントの実施		・活動団体や芸術分野を超えた活動の実施（大野城物語ショーなど）	
		新たに必要取り組み	
		・芸術文化情報サイトを軸とした活動団体や芸術分野を超えた交流会の実施	

創ろう（創造） 4 つながろう（連携・融合）			
基本施策 4－（２）芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を広げる環境づくり			
数値目標 子どもや高齢者、社会的少数者（障がい者、外国人など）が中心となった芸術文化イベントの参加者数		目標値 40人／1,000人（4.0％）	達成
【当初】 27人／1,000人（2.7％）		【見直し】 425人／1,000人（42.5％）	
実行プラン①芸術文化活動を通じて全ての人々が地域と関わる機会の充実			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらし人生を豊かにするものであり、さらに、心豊かな地域社会を形成する上でも大きな役割を果たすものとされています。 アンケート調査の結果においても、子どもや高齢者、社会的少数者（障がい者や外国人等）などの芸術文化活動が充実することを求める声が多くありました。 これらのことから、あらゆる人々が主体的に芸術文化活動を行い参加する機会を通じて、地域との関わり合いを創出し、多様な価値観を尊重し合えるような心豊かなまちづくりを推進していく必要があります。		・子どもや社会的少数者が中心となったイベントへの参加者の割合は、前回の調査と比較し、増加していることが分かった。特に、福祉や子どもに関するイベントへの参加が多くなっている。 ・アンケートでは、子どもたちの新たな価値観に出会い、伸びていくために、芸術文化に触れる機会を求める声が多く、特に子どもたちに対するサポートを求める声が多かった。	
目的		見直しの方針	
あらゆる人々が芸術文化活動に参加することで、地域や人々のつながりを創出し、心豊かな地域社会の形成を目指します。		変更なし	
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
・障がい者アートと企業との連携 ・みんなのチャレンジアート展 ・小学校音楽祭		・シニアクラブ連合会地区別文化・体育事業 ・ふくしフェスティバル（アフリカ音楽・ダンスワークショップ実施） ・国際交流フェスティバル ・文化講座 ・中学校文化発表会（演劇ワークショップ実施） ・みんなのチャレンジアート展 ・小学校音楽祭 ・ふるさと創生学校じまん事業	
		必要な取り組み	
		・芸術文化活動を通じた社会参加の機会を生み出すための取り組み	
実行プラン②芸術文化の他分野への活用			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化の推進にあたっては、芸術文化から生み出される多様な価値を、他の政策分野に活用することが重要視されています。しかしながら本市では、医療や福祉、教育、まちづくり、国際交流などの分野における芸術文化活動は活発であるとは言えない現状です。さらに、本市の施策においても、分野毎の縦断的な施策が主となっています。 このようなことから、本プランの策定を契機とし、芸術文化を通じた部門間の連携が必要となっています。		・プラン策定を機に設けた「連携会議」では様々な部署が集まり、芸術文化を活用した取り組みについて検討した。また、ここで関わった各部署がそれぞれの業務において、芸術文化を取り入れるように検討したことにより、他分野で芸術文化を取り入れた活動が実施された。	
目的		見直しの方針	
医療や福祉、教育、まちづくり、国際交流などの各分野において、諸機関や行政の担当部署内で連携を図り、芸術文化から生み出される価値を活かしたまちづくりを目指します。		変更なし	
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
各分野におけるワークショップの開催 芸術文化を通じた部門間連携会議の設置		・各分野におけるワークショップの開催（絵本の読み聞かせとダンスのコラボレーションワークショップの実施など） ・芸術文化を通じた部門間連携会議の設置	
		新たに必要取り組み	
		・連携会議のプランの進捗に沿った在り方の見直し ・福祉、教育、商工業などの他分野で芸術文化を活用してもらうための取り組みの検討	

創ろう（創造）－ 5 活かそう（資源活用）			
基本施策 5 ー（１）芸術文化に関わる多様な資源を活かす仕組みづくり			
数値目標 大野城市の芸術文化施策に満足している人数		目標値 600人／1,000人（60.0％）	達成
【当初】490人／1,000人（49.0％）		【見直し】648人／1,000人（64.8％）	
実行プラン①芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークの構築			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化を通じ人と人のつながりを生み出していくためには、芸術文化活動を行う個人・団体が個々の活動に留まらず、相互に連携・協力していくことが重要ですが、全ての個人・団体の情報を把握できていない現状があります。そのため、市内の芸術文化活動を行う個人・団体の情報を集約し、様々な活動へ活かす仕組みづくりを行う必要があります。		・文化連盟の団体をはじめ、大野城市で芸術文化活動を行っている個人・団体の情報を収集しているが、その情報は一部にとどまり、不十分である。 ・収集した情報を様々な活動で活かす仕組みづくりの検討を行う必要がある。	
目的		見直しの方針	
市内の芸術文化活動を行う個人・団体の情報の収集に努め、芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークを構築し、様々な事業との連携・活用を図ります。		変更なし	
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
芸術文化活動を行う個人・団体の情報集約 芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり		・芸術文化活動を行う個人・団体の情報集約	
		新たに必要取り組み	
		・芸術文化情報サイトを核とした芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり	
実行プラン②地域の特性を活かしたイベントの実施支援			
当初		見直し	
現状と課題		現状と課題	
芸術文化の創造と発展のためには、これまでに先人が受け継ぎ、地域に根づいてきた歴史・文化を継承していくことが重要です。本市においても、各地域の芸術発表会や伝統行事など、地域の特性ある芸術文化活動が展開されていますが、少子高齢化を要因とした担い手不足などにより、活動の衰退が懸念されています。今後も絶やすことなく、活動がより充実したものとなるためには、本市における歴史や文化、ふるさとについて理解し、その地域にある資源を最大限に活用することで、新たな地域文化の創造に向けた取り組みを推進していく必要があります。		・地域ごとに特性のある芸術文化活動が行われていたが、コロナ禍の影響で制限されていた。 ・地域活動団体のアンケートでは、団体の課題として「メンバーの高齢化」や「新メンバーの確保」に苦慮しているとの声があり、担い手の育成や活動の継続に課題がある。活動が継続されるためにも、地域の芸術文化活動について市民に知ってもらう必要がある。	
目的		見直しの方針	
地域の特性を活かしたイベントを支援し、暮らしの文化や芸術文化に触れる機会を増やし、各地域において多様な文化がさらに発展することを目指します。		変更なし	
参考となる取り組み		実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）	
地域の特性を活かしたイベントの実施 「大野城心のふるさと館」を活用した学びの場の提供		「大野城心のふるさと館」を活用した学びの場の提供	
		新たに必要取り組み	
		・地域の特性を活かしたイベントの実施支援	

実行プラン③芸術文化の活動場所の把握	
当初	見直し
現状と課題	現状と課題
本市では、大野城まどかびあや大野城心のふるさと館、各コミュニティセンター、公民館など市民に身近な拠点施設において、それぞれ芸術文化活動が行われています。しかし、開催時期の重複や定期利用団体の増加などの理由から、用途に合った会場の確保が困難となっている現状があります。 本市における芸術文化の活性化や伝承、創造のためには、多くの市民が身近な場所で活動を継続していくことが求められています。そのため、市内において芸術文化活動の場となり得る施設等を調査し、その施設の特性に応じた有効な活用方法を検討する必要があります。	・アンケートにおいて、芸術文化団体の中には、「活動場所の情報が知りたい」や「活動場所の確保」に課題があるとの声が多く見受けられ、課題は策定時と変わっていない。 ・アンケートにて、芸術文化活動ができそうな場所を尋ねたところ、いくつか回答があり、活動場所を広げるためのさらなる調査が有効であることがわかった。
目的	見直しの方針
市内における芸術文化活動ができる場所を調査し、市民に身近な新たな活動場所を提供できるような体制づくりを目指します。	変更なし
参考となる取り組み	実施している（た）取り組み（※引き続き実施する取り組み含む）
芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査	芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査
	新たに必要な取り組み
	・芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査と情報の可視化